

東吾妻町立中学校統合の構想

平成 25 年 1 月 東吾妻町教育委員会

はじめに

全国的に少子高齢化が進行する中、当町においても児童・生徒数は減少しています。学校の小規模化は、学校の活力維持や学習効果などの面で十分な学習環境を確保することが困難となり、特に一定の学習集団の形成が難しい状況は、人間形成に欠かすことのできない社会性の育成という点では大きな問題を含んでいます。

このような現状を踏まえて、町長は東吾妻町立学校統合問題審議会に中学校統合について諮問し、「中学校統合は必要」「1 学年当たり 2 学級以上が適切である」という答申を受けました。町としてはこの答申を尊重し、諸事情を考慮し「平成 26 年 4 月を目途に 5 中学校を 1 中学校に統合する」という方針を示し、様々な準備を進めてきたところですが、各地区説明会での意見や保護者、議会等の意見を踏まえ、総合的に判断する中から統合時期を 1 年延長し、「平成 27 年 4 月」を目途とする方針変更を行い、統合へ向けた準備を進めていきたいと思いますので、皆さまのご理解やご支援、ご協力をよろしくお願いします。

望ましい学校規模

学校の活性化、教育指導の充実、教育水準の維持向上を図るためには一定の学校規模が必要です。学校教育法施行規則において「学級数は 12 学級以上 18 学級以下を標準とする」とされています。

これは、多様な個性や能力、価値観を持つ教員や仲間と触れあえる学校規模、クラス替えの効果が期待できる学級の確保、集団に対する帰属意識や連帯感が希薄にならない学校規模が望ましいとされていることによります。学校経営からも、同学年や同教科の教員がお互いに指導方法等を相談・研究し、教育効果を高めていくことやいろいろな学校課題を共通理解し、学年経営も効率的に進める必要があるため、一定の学校規模が必要となります。

統合の必要性

少子化の進行などにより、今後中学校の小規模化が一層進むことが見込まれ、望ましい学級編成や学校規模を実現するためには、中学校の統合に取り組むことが重要です。中学校という多感な成長期には、社会における変化に柔軟に対応できる人材の育成が不可欠であり、集団生活の体験は、子供たちの健全な人間形成に欠かすことのできないものといえます。

それぞれの学校には長い歴史と伝統があり地域社会も学校を中心に発展してきた経緯もあり、地域の方々の学校に寄せる「思い」「願い」は十分理解できますが、次代を担う子供たちの立場に立ち、子供たちにとってより良い教育環境を提供するためには、統合が必要と考えます。

生徒数の推移

東吾妻町の中学校の生徒数は、町村合併した平成 18 年度には 533 人いましたが、平成 24 年度では 381 人になり、今後 10 年では合併当時の人数の約半分まで減少する予想で、原町中学校を除いては各学校 50 人を割ってしまうこととなります。

生徒数・学級編制の推移（平成 24 年 5 月 1 日現在）

年 度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
東 中	92	79	72	59	60	59	61	52	58	50	50	42	54	50	59	51	47	34	30
太田中	108	95	85	83	87	80	76	72	65	68	67	72	57	49	47	54	58	56	57
原町中	145	153	154	153	141	133	121	128	118	128	118	126	115	116	114	108	107	96	103
岩島中	103	91	93	89	74	58	54	61	66	64	55	51	46	42	40	39	40	38	33
坂上中	85	84	84	89	89	83	69	56	50	48	47	43	46	40	38	32	30	28	26
合 計	533	502	488	473	451	413	381	369	357	358	337	334	318	297	298	284	282	252	249
学級数	現行中学校	20	18	18	18	18	17	17	16	17	17	17	16	16	16	15	16	15	16
	統合中学校	15	15	14	13	12	12	12	11	11	11	9	10	9	9	10	9	9	8

統合によるメリット、デメリット

統合によるメリット、デメリットについては、学校の規模や立地条件などそれぞれの環境や条件などにより一概には言えませんが、一般的には以下のようなことが考えられます。

○メリット

- ・ 友達関係が広がる。
- ・ クラス替えによる学習環境、生活環境の変化に対応する力をつけることができる。
- ・ 保護者数が増えるため、PTA 活動が活性化する。
- ・ 各教科に応じて必要な免許を持つ教職員を配置することができる。
- ・ 多様な考え方に触れる機会が増え、生徒同士で認め合い、協力し合い、様々な場面で切磋琢磨する環境が整い、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。
- ・ いろいろな種類の部活動の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。 など

○デメリット

- ・ 学校区が広がることにより通学時間が長くなる。
- ・ 学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。
- ・ 学校行事や部活動等において生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。
- ・ 全教職員による生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
- ・ 教職員の人数が増えることにより教職員相互の連絡調整が図りづらい面がある。 など

校舎施設等の状況

中学校校舎については、どこの建物も比較的建築が新しく、耐震強度も基準をクリアできるものとなっています。しかし、体育館についてはどの学校も古く、耐震強度が足りないため補強や建替えが必要となります。原町中学校の体育館については補強工事が終了しており、規模も大きく武道場も設置されていること、また、地理的な条件を加味し、原町中学校の校舎を統合校として利用します。

しかし、教室数が足りないことから改築が必要となり、普通教室を 9 室から 12 室へ、理科室を 1 室から 2 室へ、特別支援教室を 1 室から 2 室へ、職員室の拡張、現在の食堂では全員が一度に食べられないことから給食を各教室で食べることにし、給食運搬用のエレベーター増設等の工事实施により必要とされる施設に対応していきます。校舎改修費用には、概算で 3 億 6 千万円ほどを予定しています。

また、給食調理場 4 施設については、老朽化が進み施設のドライ化や備品の設置、建物の維持管理に苦慮しており環境衛生面からもセンター方式による一元化を考えています。

スクールバス発着場については、現在の計画では原町共同調理場と原町小旧体育館を取り壊した跡地に予定しており、バス発着場及び保護者等の駐車場スペースとして整備する予定です。

通学の方法

統合の必要条件の第 1 の課題である生徒の通学方法については、通学時間の短縮や通学の安全確保及び通学時間を自宅から 1 時間程度を目途とすることから、通学バスを基本とし現在の路線バスやスクールバスの経路で運行していく予定です。また、生徒会活動や部活動の時間など考慮した運行時間・便数を設定していきます。

現在の計画予定では、朝 7 時 20 分と 8 時 10 分中学校着の 2 便、夕 4 時 30 分と 6 時 30 分中学校発の 2 便、土・日曜日については、主に部活動を考えると、群馬県中学校長会の申し合わせ事項により「土・日曜日どちらか 1 日は原則休みとする」ことから、土・日曜日どちらか 1 日の運行を考えています。路線数については、東地区が岡崎地区と箱島地区から出るものが 2 路線、太田地区が泉沢から出るものが 1 路線、岩島地区が松谷上組、三島上郷、厚田長藤から出るものが 3 路線、坂上地区が萩生、須賀尾、大柏木から出るものが 3 路線、計 9 路線を考えています。

統合の準備体制・スケジュール

統合に伴う諸問題を検討し、統合を円滑に進めるため、地域住民、学校、PTA 等の代表による中学校統合準備委員会を設置して準備していきます。進めるにあたっては、効率的な運営を行うため各専門部会を設け、具体的内容を検討していきます。また、議会、町、教育委員会が連携を取りながら進めていきます。

東吾妻町中学校統合スケジュール(案)

[illegible]

統合に対する意見とその対応

○統合問題審議会の意見・要望

- ・中学校統合により、通学距離が長くなると、精神的、経済的に大きな負担を強いることになるので、通学に係る保護者の経済的負担を軽くするような体制をとっていただきたい。
→通学については、無料のスクールバスによる体制を整えます。
- ・中学校統合時の生徒の精神的負担をできるだけ軽減させ、統合後の中学校生活が円滑に送れるようにすることが望まれることから、教職員の配置上の配慮など適切な対応に努めていただきたい。
→それぞれの学校から、より多くの先生を配置し、生徒達が安心して学校生活を送れるよう人事面でも配慮する予定です。各学校長と教育委員会とが事前に十分話し合っ、教職員の異動や相談員の配置など、町費負担の教職員も含め、子どもたちの心のケアを考え、万全に対応できるように計画していきます。
- ・中学校が統合したら地域が寂れるのではないかと地域の住民の不安を解消するための検討をお願いしたい。
→跡地利用を含めた地域の新しい町づくり計画を地域住民等とともに検討していきます。
- ・中学校跡地利用についても住民の意見を十分に汲み取りながら検討をお願いしたい。
→地域住民等の意向や跡地・跡施設の状況も考慮しながら有効活用を図っていくとともに、従来からの避難所としての機能も確保する中で十分な検討をしていきます。
- ・新たな中学校ですので、校名・校歌・校章・制服等を新たに決めなければならないが、それらを決定する際には、幅広い意見の集約を行い、慎重に決定していただきたい。
→統合準備委員会においてそれぞれ決定していく考えです。現在のところ、校名については、公募を行い 77 件の中から、校名候補として「東吾妻中学校」としました。校歌・校章についても公募等を行い決定していく考えです。制服・体育着については、保護者へのアンケート結果を踏まえた基本デザインにより、業者決定し、詳細協議をしていきます。
- ・中学校統合により、より良い教育環境を作れるよう努めていただきたい。
→学校、保護者、教育委員会、町等連携しながら、より良い教育環境を作れるよう努めていきます。

○住民説明会の意見・要望（概要）

- ・どのような部活動を考えているのか。
→部活動については、現在ある 5 中学校の部活動を基本に考えていますが、今後、保護者、学校側との協議の中で方向性を定めていきます。

- ・通学路において歩道や信号が整備されていない危険箇所がある。歩道、信号、街灯などの整備計画はあるのか。
→危険箇所については、県土木事務所や警察などにおいて、その対策について検討しています。その他の歩道、信号、街灯などの整備については関係機関に整備依頼をしていきます。
- ・スクールバス通学と徒歩・自転車通学の境界が植栗信号付近になっているようだが、今後どうなるのか。また、境界協議はどのようにするのか。
→学校から概ね 4km を基準にスクールバス通学と徒歩・自転車通学の境を検討しています。現段階では太田地区は植栗信号付近にて大泉寺川を基準、岩島地区は郷原方面は霧沢、厚田方面は深沢川を基準に考えています。境界協議については各 PTA と協議していきます。
- ・スクールバス停留所までが遠距離の生徒は、停留所まで自転車になるかと思うが、バス停に駐輪場の整備などは考えているのか。
→その時々 of 生徒数、状況により個別対応になると考えますが、状況により学校等と協議していきます。
- ・統合関係の情報を周知してほしい。
→「統合準備だより」等での情報提供や町ホームページによる資料等の掲載をしていきます。
- ・統合すれば、財政的にメリットがあるのか。
→5 校から 1 校に統合することにより人件費や施設の維持管理費は削減されますが、統合による校舎改修費やスクールバス運行費などの新たな経費が必要となってきますので単純に現行と比較することは困難です。
- ・校舎などの増改築については、工事は夏休み期間中に集中して行ってもらいたい、完了は前年度の 11 月までをお願いしたい、授業のあるときは騒音のうる工事は避けてもらいたい、また、ソフト・ハード面ともに施設充実をお願いしたい。
→ご指摘の事項を考慮しながら施設整備に努めていきます。
- ・今は少人数クラスだと授業もすごく手が行き届いていて、ちょっとした体調変化にも気付いてくれるが、大人数だとそのようなことがないと思うが、どのように考えているか。
→1 学級の人数が多い学校は、少ない学校に比べて生徒指導がやりづらいという面はあると思いますが、学校全体で教職員同士が連携し生徒指導等の充実を図っていきます。
- ・統合に関することについては、どこへ問い合わせをすればいいのか、窓口はどこか。
→教育委員会事務局へお願いします。また、統合準備委員会に PTA 役員の方も委員としていきますので、PTA 役員の方に繋いでいただいても結構です。